

外環問題を考える緊急シンポジウム

2020年10月18日、建設途中の外環道トンネル直上の地面が陥没した事故から1年半。いまだ納得のいく説明や補償がされないままだ。

2022年1月17日に開かれた「外環問題を考える緊急シンポジウム」に参加した。これまでの国やネクスコ東日本の説明や有識者委員会の調査報告書に対して、トンネル工学、地盤工学、地質学、事故調査などの専門家が中立の立場で、被害者住民の疑問に答えるという形で検証が進められた。なぜ陥没が起きたのか、専門的な知識がない素人には大変難しい問題だが、それでも事前調査や工事手法に手抜かりがあったのではないかと思わざるを得なかった。

専門家らはネクスコや有識者委員会の報告は信憑性が薄いと指摘。会の総意として、「根拠のある説明を求める」「工事再開には気泡シールド工法ではなくベントナイト工法の採用を求める」ことが確認された。

現在、工事は止まっているが(大泉側では一部再開)、被害を受けたにもかかわらず補償対象にもならない周辺住民の生活も止まつたままだ。3月16日の地震の際にはどんなに不安だったか想像に難くない。市民の命と暮らしを守る市の責務として、一刻も早く第三者による事故調査委員会の設置を国に求めるべきと考える。

HPV(子宮頸がん)ワクチン学習会

重篤な副反応の続出で中止されていたHPVワクチンの積極的勧奨が4月から再開された。接種対象の小6～高1女子の保護者からは「本当に大丈夫?」と不安の声も聞かれ、2月6日にオンライン併用で開催した学習会に25名が参加した。

薬剤師で元参議院議員の講師はたともこさんから、詳細な資料をもとに ◎HPVワクチンの有効性は非常に低いこと ◎重篤な副反応のリスクは有効性を大きく上回ること ◎子宮頸がんは細胞診とHPV検査を併用した定期的な検診で予防できること ◎HPV感染症は性感染症なので性教育も重要であるなどの説明を聴いた。

子宮頸がんは、検診によって前がん病変に気づいた段階で適切な治療をすれば、ほぼ完全に予防が可能なので、副反応リスクのあるワクチン接種より定期的な検診のほうが確実に安全で有効だ。参加者からは、判断するための知識が得られたとの感想が寄せられた。

参考情報

- ①性感染症については「東京都性感染症ナビ」を参照。
子宮頸がんについては東京都福祉健康局「TOKYO #女子けんこう部」を参照。
- ②HPVセルフチェックキット…自分で検体を採取し郵送して検査でき、市販品もある。
調布市では今年度より試験的に導入し、若い世代の受診率向上を試みる。

活動報告

1/11・2/1 東京・生活者ネットワーク DX学習会

1/14 市議会第1回臨時会

1/17 外環被害住民による「外環問題を考える緊急シンポジウム」

1/20 「有機フッ素化合物と子どもの健康」

1/24 個人情報保護審査会 傍聴

1/24・27・2/2・3 自治体財政セミナー①～④

1/26 「新型コロナで明らかになった医療・社会保障崩壊」(本田宏さん)

1/27 2022年度予算概要会派説明

1/29 おしゃべりかわ(議会報告会)

2/4 ・東京都議会議員研修会「子どもの貧困対策の方向性について」(阿部彩さん)

・「公務非正規で働く女性たちの現実」(瀬山紀子さん他)

2/6 調布ネット主催 HPVワクチン学習会(はたともこさん)

2/9 市議会予算内示会

2/9・10 多摩住民自治研究会学習会

2/10 「外環道トンネル工事の再開中止を求める申し入れ」を都知事に提出

2/11 「LGBTQの子どもの孤立を防ぐために大人ができること」
(西原由記子さん)



詳しい活動
はブログでも

2/11・3/11 調布LGBT&アライの会主催「性と生き方の多様性講座」

2/18 「新型コロナウィルス感染拡大による子どもへの影響」

(阿部彩さん他)

2/19 「子どものアトピー・アレルギー気になりませんか? 化学物質が子どもに与える影響」(角田和彦さん)

2/28 市議会第1回定例会(～3/24) 3/7 代表質問

3/19 調布市京王多摩川駅周辺地区に関するまちづくり懇談会

3/27 調布市基本構想策定推進市民会議中間報告会



都知事に申し入れ



毎週土曜日午後2時から調布駅前にて一日も早いロシア軍撤退を願ってサイレントスタンディングを行っています。